

マクスウェル・ハザン:ワンオフ・カスタムオートバイの製作者

フリーのアメリカ人アーティスト、マクスウェル・ハザンは、見事な独特なオートバイを製作する。どの作品も、6~8か月に及ぶ真剣な手作業による職人芸の妥協しない仕上がりだ。MB&F M.A.D. Galleryは、ブルックリンにある Hazan Motorworks のアトリエの最近の2作品、Royal Enfieldと Harley Davidson Ironhead を展示できて光栄だ。

レトロ調で僅かな艶消し効果と表面の艶が、これらの驚くべき作品にビンテージの外観を与えている。一方、型破りな部品、すなわちトラクターのヘッドライトと台所用品でさえ、構造全体の中で厳密な役割を演じている。目に見えるエンジンの機械的な複雑さが、巧みな設計ラインと対照的に創造的な緊張度を一層高めている。

ニューヨーカーのそれぞれのユニークなオートバイのスタート地点はエンジンだ。ハザンは、芸術的に美しいと思うモーターを見つけることから始め、その周辺を構築していく。

「ゼロの状態から作るのが好きなんだ。実に単調な作業と多くの時間を要するけれど」と彼は言う。「この方法だとデザインに妥協しないで構築できる。正に必要な場所に、必要な方法ですべての部品を設定できるんだ。実にユニークで巧みなものを作ることができる。」

また、ハザンが作る非常に優れたマシンには、彼の目を捉えるものは何でも組み込むことができる。そして多くの場合、実際に組み込んでいる。「省くものは何もない」と彼は語る。「何でも見つけたものや、むき出しの鋼鉄を土台に、すべてを手作りしている。レンズカバーにショットグラスを使用し、アイスクリームスクープからテールライトを作ったこともあるよ。」

ハザンのオートバイ製作の道は、まさに文字どおり偶然から始まった。モトクロスの偶発事故に遭遇後、彼は3か月間ソファで静養することを余儀なくされた。その間、この心理学科の卒業生はリビングルームに置いてあったビーチクルーザーを毎日何時間も眺めて過ごしていた。彼はこれにエンジンを追加しようと目論み、最終的に追加したけれど、その時、自分が好きな乗り物はオートバイだと思ったようだ。

「オートバイがちょうどいいんだ」とハザンは確信する。ハザンはアマチュアとして情熱的に2、3のバイクを改良し、2012年にプロになった。「車は美しいけれど、恐らく、僕が表現したいものを実際に表現するにはいろいろなものがあるんだ。」

ハザンの Royal Enfield

ハザンは、彼の姉妹がインドでレンタルした Enfield の写真を見たときに、Royal Enfield のモーターと恋に落ちた。そこで2年前、1996年型 Royal Enfield のモーターを購入し、6か月間作業をしてきた。「ゼロからすべてを構築したのはそれが初めてだった」と彼は言う。「レバー、リンクージ、ケーブルなどのすべての各パーツは見えるように作られた。」

ハザンの Enfield への賛辞は、最も明確に、銅のチェーンの付いたダブルカムシステムのあるこのエンジン、脈打つ心臓にスポットライトが当たっている。バイクの前輪は、印象的なドラムブレーキシステムが自慢だ。上のハンドルバーは金属製のグリップを支える。

フレームとエンジンの銀色の部品は、燃料タンクの赤い表面の艶と、丸い後ろのタイヤの上に浮く優雅な手彫りの木製シート
の濃いブラウンの色調とがわずかに対照をなしている。シートは、ビンテージの、イタリアのスピードボートのデザインにインスパイヤーされている。また、木の伸縮を補うためにハザンは、3度、シートの表面を完全に再仕上げした。

ハザンの Harley Davidson Ironhead

ハザンの Ironhead には実に目を見張らせられる。水平のショック・アブソーバが付いた革新的な前のサスペンションが特徴的だ。「すべてのバイクに、見たことがないサスペンションの設定を試みている」とハザンは言う。

Ironhead のモーターは長年ハザンを魅了してきたが、去年から自身のモーターを作り始めた。「僕は常に Harley 1000s のヘッドが好きだったんだ」と彼は認める。「だから、2つのフロントヘッドとデュアルキャブレターを運転するアイデアが浮かび、81年ものを購入したんだ。」

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

ハザンの Ironhead の自慢は、オートバイが珍しく優雅である点だ。エンジンを見るのは楽しいが、燃料タンクもそのお株を奪っている。「機能部品を作る方法は無限にあるが、芸術的にも美しくなくてはならない」とハザンは語る。「Harley の燃料タンクは、しっくりくるまで 4 度作り直さなければならなかった。毎回、前のものよりわずかに小さくして作った。」

そうした甲斐があったようだ。銀色に仕上げた、曲線の美しい先細形状をしたタンクは、飛び跳ねるサーモンのように、シームレスに全体のフレームにフィットしている。フレームの目に見える溶接継ぎ手は、バイクの飾りになっている。

ハザンにとって、常に快適な領域から無理強いして脱出することは、一見してこうした機械的な美しい逸品を作る習慣となっている。

「人は何か上手なことを見つけたら、同じことをし続ける傾向があるものだ」と彼は言う。「だから本当にそうならないようエゴを取り除き、毎回何か違ったことをしようと試み、自ら追い込むんだ。こうして自分の周囲のものをすべて見るようにし、芸術的に美しいと同時に、しかも新しい物を生み出すんだ。気づくと、プロジェクトごとに、必要に応じたスキルが磨かれているけれど、すべて初めて行うというのは毎回フラストレーションがたまるとよ！」

ハザンがフルタイムでカスタムのオートバイの製作に捧げた短期間のうちに、彼の作品に熱心な支持者が集まった。事実、彼の初の顧客は、ほかならぬオーストリア人の向こう見ず、フェリックス・バウムガルトナーであった。彼は、宇宙から地球に向かって飛び降りた人物だ。結局のところ、マクス・ハザンの手作りのオートバイの 1 つに飛びこまずにはいられなかったのだ。だからといって誰も彼を責められないだろう。

マクスウェル・ハザンの経歴

マクスウェル・ハザンは 1981 年、ニューヨークに生まれた。青年時代は、ロングアイランドにある父親の小さな工場で「物を分解して元に組み立て直し」、またオートバイに乗って多くの時間を過ごした。

ハザンは次のように述べている。「僕はデザインしていない時、または何かを作っていない時のことを正直、思い出せないんだ。両親は美しいものを認識し、それらを試行錯誤するよう僕の好きなことを勧めてくれたので、僕は幸運だった。円熟するにつれ、僕のデザインのチャレンジは、飛行機や複雑なヨットから、ビンテージの車...そしてもちろんカスタムのオートバイへとますます複雑になった。

心理学の学士を修了後、ハザンはまず、デザイナーとして成功したものの個人的に報いられないキャリアを努力して切り開いたが、その後辞める決断をし、「この上なく美しいオートバイの構築」という情熱で生計を立てることになる。「僕の興味は本業にはなく、そりゃあかなり働いたよ」と彼は言う。「だから、実際に好きなことをするために減給を受け入れたんだ。」

ハザンは 2012 年、Hazan Motors を設立し、ブルックリンの小さな工場で作りのモーターの付きのアートの製作を始めた。プロとして彼はこれまでにバイクを 4 台作った。M.A.D. Gallery に展示中の最も最近の 2 台は、ゼロからすべてを構築した最初のもので、エンジン以外をすべて自分で組み立てた。

この 33 歳は、オートバイを所有したり、乗る以上に、オートバイの構築を実際に楽しんでいる。そして、決してインスピレーションが不足することはないと彼は言う。「それは子供のおもちゃや、植物、または動物から得られる。何でもアイデアをの刺激となるよ。僕は目と精神をオープンにし続けるよう努めている。」